

# ラムサール条約ってなに? ～湿地をまもる～

ラムサール条約は1971年に、イランのカスピ海のそばにある「ラムサール」という町で結ばれました。

ラムサール条約は正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な<sup>じゅうよう</sup>湿地に関する条約」といいます。

湿地と、湿地にくらすいきものたち（動物、植物）の保全を進めていくための国際的な取り決めです。

## 水鳥の“渡り”と湿地

渡り鳥とは季節によって定期的に、国境をまたぐような

<sup>ちようきより</sup>長距離の移動をする鳥たちを指します。“水鳥”と呼ばれる

ガンやカモ、シギやチドリの仲間の多くが“渡り”をします。

冬になると琵琶湖にたくさんやってくる水鳥たちは、春に

<sup>はんしよくち</sup>なると繁殖地に戻って卵を産み子育てをします。

琵琶湖で水鳥をどんなに大切に守っても、繁殖場所がなく

なってしまったら、水鳥は生きていけません。

水鳥たちを守るには、国際的に連携しながら湿地を守る必要が

あるのです。



琵琶湖で冬を過ごすコハクチョウの渡りのルート

# ラムサール条約ってなに？ ～湿地をまもる～

ラムサール条約では“いつも水でうるおっているところ”は全て湿地にふくまれます。

## 湿地って何だろう





# ラムサール条約ってなに？ ～湿地を守る～

これまで湿地は“じめじめした使いづらい土地”とされ、<sup>かんたく</sup>干拓や埋め立てによって開発するほうがよいと思われてきました。その結果、1900年以降、世界の湿地の64%以上が消えてしまいました。

しかし湿地は、私たち人間にとっても大切な場所であることが認識されるようになりました。

## 湿地のさまざまな役割



水をきれいにする・水を供給する  
水をたくわえる



食料を供給する  
魚や、水田で作られるお米など



災害から守る  
河川の氾濫(はんらん)をおさえる  
水をたくわえることで、干ばつにそなえる



炭素をたくわえる  
地球温暖化の防止に役立つ



さまざまないきものを育む  
美しい景観



# ラムサール条約ってなに? ～湿地を守る～

ラムサール条約では、人もいきものも共生できる“湿地”との関わり方として、3つの柱を掲げています。



## 保全・再生

水鳥の生息地としてだけでなく、私たち人間の生活を支える重要な場所として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけます。

## ウィズユース(かしこく使う)

湿地の生態系を維持しつつ、いつまでも“めぐみ”を得ることができるように、上手に使います。

## 交流・学習

湿地の保全やウィズユースが広まるように、交流や普及啓発を進めます。

ラムサール条約には2023年1月現在172か国が<sup>かめい</sup>加盟し、琵琶湖を含む2,471か所の湿地が登録をされています。